

総合医学講座 内科学分野 (得能、西崎、京極)

高血圧、糖尿病、脂質異常、肥満といった生活習慣病をもとに、心筋梗塞や脳卒中など循環器病を発症します。近年では、歯周病も生活習慣病の1つと定義され、歯周病は他の生活習慣病の増悪因子になることも報告されています。内科では口腔も含めた全身の健康と健康寿命の延伸を目指し診療や研究を行っています。

・生活習慣病と歯周病の関わりについての臨床研究

健診データの活用：医科健診と歯科健診の解析

・低酸素応答の基礎研究、低酸素（OSA：閉塞性睡眠時無呼吸症候群）と血圧変動や酸化ストレスに関する臨床研究（Tokunou, Sleep Biol Rhythms. 2024）

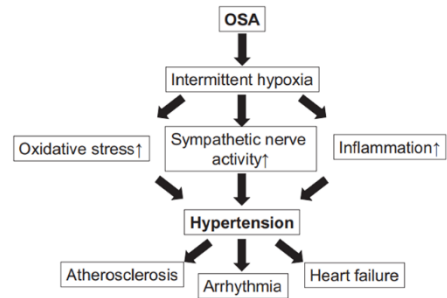


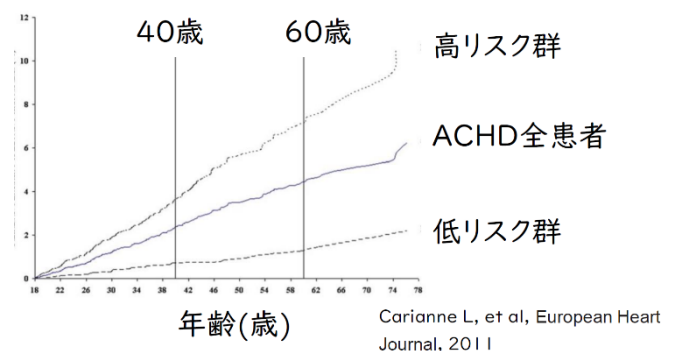
Fig. 1 Various mechanisms of OSA-induced hypertension and cardiovascular diseases
Tokunou T. Hypertens Res. 2020

・先天性心疾患と歯科治療に関する臨床研究

先天性心疾患は100人に1人生まれ、心臓外科手術の進歩によりその大多数が成人する時代となりました。日本国内の先天性心疾患患者は、小児患者より成人患者の方が多く、成人先天性心疾患(Adult congenital heart disease, ACHD)と呼びます。

ACHD患者では、感染性心内膜炎(IE)の発生率が高いことが知られていますが、成人期は一人暮らしや就職のため歯科治療が中断されることが多く、定期的な歯科治療の重要性が再認識されています。

感染性心内膜炎累積発生率(%)



・肝線維化と腎機能障害の指標に関する臨床研究

血清トロンボスポンジン-2 (TSP-2) は、コラーゲンやフィブリン形成を含めた、様々な生物学的な過程で重要な役割を担っています。一般住民の検診において、TSP-2は、肝線維化指標 (FIB4) や腎機能指標 (eGFR) と関連していることが示されました (Kyogoku, 2025)。

